

## CSRの取り組み

東京スター銀行は、企業としての社会的責任を果たし、社会・お客さまとともに発展していくため、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。そして、これらの活動を実施する際の指針となる基本方針として、「社会への貢献」「次世代を担う人材の育成」「ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供」の3項目を掲げています。

### 社会への貢献

当行は、持続可能な社会の実現のため、役職員によるさまざまな活動を行い、お客さま、地域社会、地球環境などへ貢献するとともに、自ら考え、より自発的に仕事に取り組む姿勢を持った人材の育成や働きがいのある社風を醸成することで、社会とともに発展することを目指しています。

#### 《関連するSDGs》



#### ● FITチャリティ・ランへの協賛

FITチャリティ・ランは、地域に根ざした、社会的に意義ある活動をしているものの、認知度などの問題により十分な活動資金を確保できていない団体への寄付を通じて、社会貢献を行います。当行では、2013年から協賛し、有志行員のランナー・ウォーカー・ボランティアが参加しています。2021年は、新型コロナウイルスの影響により、2020年同様、それぞれが走った場所や距離を専用のアプリに登録する形式のオンライン開催となりました。本取り組みに賛同する有志の行員ボランティアが、FITチャリティ・ランの参加行員募集告知や前日までの準備などを行い、当日も多くの行員が参加しました。



#### ● サステナブルな生活に関する行員による情報共有・交流

現在、環境に優しい生活として、節電やリサイクルだけでなく、脱プラスチック、プラントベースフード（植物性の食材からなる食品全般）、フェアトレード商品などさまざまな取り組みが行われています。

サステナビリティに関する行内アンケートを実施したところ、「個人でできることにも取り組みたい」という行員の声が多く寄せられたため、当行では、行員がオンライン上でサステナブル生活にまつわるさまざまな情報を提供したり、「こんな商品を試した」「こういう情報はないですか？」と情報交換したりするなど、対面で話す機会が減っている中でも、行員同士が気軽に交流できる取り組みを行いました。



行内セミナーで使用した資料の一部

#### ● 献血への協力

当行では、東京都赤十字血液センターに協力し、行員に献血協力カードを配布するなど、献血に関する啓発活動を行っています。2021年度は、行員やその家族など、のべ57名が献血に協力しました。

## 次世代を担う人材の育成

当行は、未来の社会がより豊かなものとなることを目指して、次世代を担う若者や子どもが、将来、希望を持って自立した生活を送ることができるよう、金融教育や、貧困・虐待などの社会課題に関する啓発活動を行っています。

### 《関連するSDGs》



### ● 金融教育「お金のスタートレーニング」

当行は、子どもがお金を正しく使うことの大切さなどを楽しく学ぶことができる機会を提供することで、子どもの金融リテラシーの向上を目指しています。当行では、親世代の貧困が次世代にも影響を及ぼす「貧困の連鎖」が問題であると考え、貧困家庭の支援をしているNPOや児童養護施設などと連携して、困難な状況にある子ども・若者向けに金融教育「お金のスタートレーニング」を実施しています。2021年は、施設職員や里親向けだけでなく、本課題を一般の方へ知っていただく啓発活動も含めて、オンラインを中心に約300人に講座を提供しました。



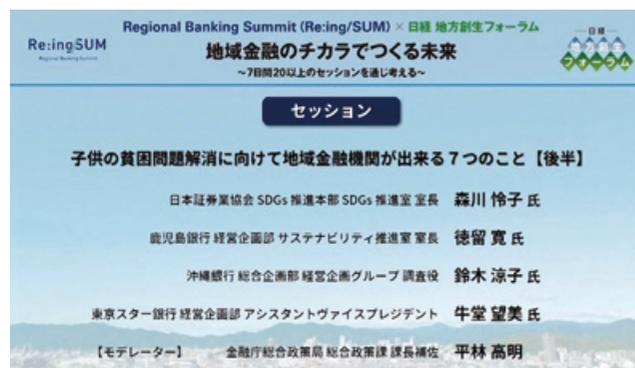
### ● 子ども虐待防止「オレンジリボン・キャンペーン」

オレンジリボンとは、子ども虐待防止のシンボルマークであり、オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表しています。当行では、このオレンジリボンを広めることで、子どもと家族の笑顔を守り、子育てをする親へ温かいまなざしを向けられる社会となるよう、2015年より、毎年11月に「オレンジリボン・キャンペーン」として啓発活動を実施しています。本キャンペーンは、NPO法人児童虐待防止全国ネットワークが実施する「オレンジリボン運動」へ賛同するものです。2021年に7回目となる「東京スター銀行 子どもと家族へ、やさしさを オレンジリボン・キャンペーン」では、お客様へはオレンジリボンを知っていただくようオンラインでの啓発活動、また行員へは啓発グッズを配布しました。

### ● Regional Banking Summit パネルディスカッション登壇

2022年2月に開催された金融庁主催のRegional Banking Summit (Re:ing/SUM)において、「子どもの貧困」がテーマとして取り上げられました。「子どもの貧困」は、政府だけでなく民間企業やNPO、国民が一丸となって取り組むべき課題であり、企業などにおける今後の取り組みの深化が期待されています。

当行からは、CSR推進担当行員が「子どもの貧困問題解消に向けて地域金融機関が出来る7つのこと」のパネルディスカッションに登壇し、シングルマザーの方への就労支援や金融教育の取り組み事例を紹介するとともに、他の金融機関の登壇者と、金融機関は「子どもの貧困」にどのように取り組むべきかを議論いたしました。



2022年2月12日 金融庁・日本経済新聞社共催「Regional Banking Summit (Re:ing/SUM)」×「日経地方創生フォーラム」

## ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供

当行では、「ダイバーシティ推進は成長の源泉」であり、多様な人材が生き活きと働くことが、組織の活性化や新たな価値創造につながると考えています。お客さまのさまざまなニーズにお応えするべく、多様な視点をビジネスに反映させ、より良いサービスを提供することを目指しています。

### 《関連するSDGs》



### ● 優良子育てサポート企業「プラチナくるみん」の認定を受けています

当行は、次世代育成支援対策推進法<sup>(※)</sup>に基づく優良な子育てサポート企業として、厚生労働大臣より「プラチナくるみん」企業に認定されています。

「プラチナくるみん」は、改正次世代育成支援対策推進法（2015年4月施行）によって創設され、子育てサポート企業として「くるみん」認定を受けた企業のうち、より高水準の要件を満たした企業が特例で認定される制度です。

当行では、行員の多様な働き方事例の収集・提供、有給休暇の取得促進などを目的として、各種セミナーや座談会（対面・オンライン）を実施したり、相談窓口を設置しています。また、「仕事と治療の両立のための不妊治療サポートガイドブック」を作成するなどサポート体制も構築し、ワークライフバランスの推進や人事制度のさらなる充実に努めています。



<sup>(※)</sup>次世代育成支援対策推進法：次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境整備のために、企業等による仕事と子育ての両立支援の取り組みを促進することを目的として施行された法律。

### ● データで見るダイバーシティ推進

当行では、生産性向上のための働き方改革として、長時間労働の削減・有給休暇の取得推進等に取り組んでいます。また、多様な人材が生き活きと働くことができる職場環境づくりに努めています。

#### <働く環境について>

|           | 2019年4月～<br>2020年3月 | 2020年4月～<br>2021年3月 | 2021年4月～<br>2022年3月 |
|-----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 平均残業時間    | 10.5時間              | 14.2時間              | 23.0時間              |
| 平均有給休暇取得率 | 78.9%               | 77.1%               | 78.2%               |

#### <育児休業取得率>

|    | 2019年4月～<br>2020年3月 | 2020年4月～<br>2021年3月 | 2021年4月～<br>2022年3月 |
|----|---------------------|---------------------|---------------------|
| 女性 | 100%                | 100%                | 100%                |
| 男性 | 53.8%               | 100%                | 67%                 |

#### <多様な人材について>

|         | 2020年3月末  | 2021年3月末  | 2022年3月末  |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 外国人従業員数 | 47人(2.7%) | 46人(2.7%) | 39人(2.7%) |
| 障がい者雇用率 | 2.2%      | 2.3%      | 2.3%      |

#### ▼ 女性の管理職比率推移

